



Children's
Museum of
Shizuoka

令和5年度 施設の評価表

園名：東保木間保育園

評価日：令和 6 年3月31日

I.経営の重点に関わること

* 評価について * A…十分達成している B…概ね取り組んでいる C…取り組んでいるが、成果が十分でない

項目	内容	自己評価	課題点・改善案（確認項目参考）
1 保育所・保育指針	・保育所保育指針・全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育、保育のねらい、内容が総合的に展開されるよう編成されている。	A	リーダー会議・ブロック会議・職員会議・HIROKOメソッドの取り組み・全体の計画・年間指導計画や指導案についての作成・話し合いを行っている。 就学先の小学校へは園での育ちや配慮してほしい事柄がわかるように保育要録を作成したうえで小学校へ出向き、一人一人の情報を共有している。
	・全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を全職員が持っている。	A	
	・指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している。	A	
	・子どもの発達状況、月や期の目標、教育、保育の実態について職員間で話し合う機会を設けている。	A	
	・就学先の小学校へ子どもの育ちを支える資料を確実に送付し、情報共有を図っている。	A	

II.各領域に関わること

項目	内容	自己評価	課題点・改善案（確認項目参考）
1 施設の保守点検	・施設の保守点検	A	設備・消防用設備点検・固定遊具安全点検・害虫駆除等は業者に点検依頼をし、安全管理に努めている。 防災訓練・不審者訓練は自衛組織としてだけでなく、関連機関と連携して不測の事態にも落ち着いて対応できるように取り組んでいる。
	・施設の清掃等	A	
	・防災への配慮	A	
	・防犯への配慮	A	
2 子どもの権利の尊重	・子どもの権利について職員全体で理解し、十分配慮している。	A	全国保育士会倫理綱領・児童憲章・個人情報保護マニュアル（プライバシーポリシー・情報管理マニュアル・鍵管理）・NG用語虐待マニュアルとそれに基づいた園内研修・発達支援児童個人計画と記録等に取り組んでいるが、改善が必要な場面もあったことから、引き続き職員が子どもの発達の理解を深め、対応力を身につけられるように、園内研修をおこなって行く。 子どもや保護者の情報については職員会議や昼礼等で情報共有をし、配慮をおこなっている。
	・保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉遣い、身体的虐待をしていない。	B	
	・長期欠席の子どもの状況把握をしている。	A	
	・子どもの様子で気になる事は関係機関に報告している	A	
	・個人情報保護について職員全体で確認し十分配慮している。	A	
3 教育・保育施設並びに保育者の質の向上	・地域の状況を把握し、法人の目指す教育、保育方針を理解し園としての取り組みを職員へ伝えている。	A	保育所保育指針・全体的な計画・経営理念・経営ビジョン・教育保育目標・教育保育方針を定め、保護者へは新年度説明会や園だよりクラスレターで情報を伝えるようにしている。 各種行事アンケート・個人面談からの情報をもとに、気になるご意見については速やかに改善を行い、より良い園運営に努めた。
	・保育所保育指針を理解し向上心を持って教育・保育に取り組んでいる。	A	
	・子どもと保護者のおかれた状況を受け止め保護者とのよりよい関係を築き良好に保つための努力をしている。	A	
	・利用者（保護者）の意見を聞き改善に努めている。	A	
4 環境	・保育者は、自身が子どもにとって重要な環境である事を十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている。	A	保育室の衛生管理については園の重点目標に掲げて取り組んできた。清掃点検を用いて整備されていない個所については都度改善してきたが、今後も継続をしていきたい。 保育室の玩具は子どもたちの成長に合わせて入れ替えを行うと共に、感染対策の観点からも玩具の消毒も継続的に実施し、より安全な環境への配慮をおこなった。 設備の修繕箇所については、業者にし、都度改善を図っている。
	・各保育室は整理整頓され、雑然としていない。	B	
	・各保育室には、一人ひとりの成長発達を考慮した遊びを準備している。	B	
5 愛着形成	・保育者は一人ひとりの思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている。	A	クラス担任だけでなく、園の職員がそれぞれの立場で子どもたちを見守り、成長を育んできた。
	・子ども同士が互いの気持ちや発信を受け入れられるように援助している。	A	
6 健康・安全	・乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助がおこなわれるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置付けるとともに評価・改善に取り組んでいる。	A	安全計画の策定をし、全職員が緊急時に落ち着いて対応できるように園内研修を実施した。安全対策として、ロッカーなどに転倒防止対策や毎月の避難訓練での結果反省を共有し、安全点検の強化に努めた。 緊急時災害時対応・SIDSチェック・アレルギー対応・保健計画・感染症マニュアルによる研修・健康チェック表・検診報告・遊具点検チェック・緊急時職員体制・緊急時フローチャート・避難訓練等での対応をしている。 口腔内の衛生管理は看護師による虫歯予防指導や、保健センターの歯科衛生士の訪問による歯磨き指導で、歯磨きの大切さを知らせると共に、年に1回の歯科検診による虫歯治療の勧奨を行い、保護者にも子どもの健康管理への注意喚起を行った。 緊急時の対応についてはフローチャートを掲示し、行政や警察や消防、各病院の連絡先が一覧となって全職員がわかる場所に掲示している。
	・アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	
	・子ども一人ひとりの生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスを取っている。	A	
	・SIDSチェックには十分配慮し対応し、睡眠時の記録を取っており、睡眠している時は必ず、保育者が保育室にいる。	A	
	・年2回健康診断（内科検診・歯科検診）を行っている。	A	
	・衛生管理・感染症対策等に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	
	・年齢発達に合わせて、うがいや正しい歯磨き、手洗いの方法を指導している。	A	
	・子どもの健康について保護者との情報を共有している。	A	
	・施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている。	A	
	・緊急時に対応できる職員体制が整っており、役割分担が決まっている。	A	
	・子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり安全に配慮して駆動できるよう、計画的に教育・保育を実施している。	A	
	・薬品や洗剤の管理、転倒防止や指詰め防止、避難経路の確保が適切である。	A	
・栄養士・保育者等は衛生管理への配慮がなされている。	A		
・警察や消防署、近隣の病院との連携が取れる体制がある。	A		
7 幼保小連携	・0.1歳児からの保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している。	A	児童票・児童要録・幼保小連携計画をもとに作成している。
8 特別支援	・必要に応じて支援センター等との助言を受けている。	A	保護者との面談のほか、外部機関と連携を図り、個々の特性を理解し個別支援計画を策定して取り組んでいる。
	・子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観・授業参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている。	A	
9 保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	・第三者評価や、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている。	A	法人保護者アンケート・行事アンケート・子育て支援イベントなどから回答をもらい活かしていけるよう取り組んできたが、イベント参加人数が増えるように更なる工夫をしていく。
	・行政や地域で行われている子育て支援施策を理解し取り組み、必要とする家庭と関係機関につなげている。	A	
	・施設が実施している子育て支援事業の情報を積極的に発信している。	B	

考察

今年度は安全計画の策定と、全職員が緊急時に慌てずに対応できるようにするための園内研修をおこない、より安心安全な園運営委が出来るように努めてきた。職員の意識向上はもとより、毎月の避難訓練等での気づきは職員間で共有し改善と工夫をすることが出来た。今後も職種の垣根を越えて、子どもたちの安全な保育教育のために努めていくと共に、職員間のコミュニケーションの強化に努めたい。

また、施設的环境整備については修繕を重ねながら、過ごしやすい保育環境を常に考えていく。特に乳児のクラスに置いては個々の発達を考え、玩具の入れ替えをしながら、子どもの心身の発育を促していきたい。

今年度も様々なアンケートから保護者のニーズを知ることが出来、より良い運営のために活かしてきた。園の教育カリキュラムに関しては満足度も高く、更なる効果を出せるよう、保育と教育に尽力していきたい。